

～日本遺産認定！相良700年が生んだ保守と進取の文化～ ～チャレンジホリデー人吉～

チーム名：チーム つながる

立岡志穂里・松島 泰代・立野嘉奈子・植竹明日香

人口減少、少子高齢化、中心市街地の衰退。これらは、多くの自治体で共通して抱える問題です。私たちの住む人吉市も例外ではなく、衰退の一途をたどっています。

人吉市をもう一度、若者が集う活気ある街にしたい。そんな思いから、若者、特に高校生や大学生を対象とした政策を提案します。

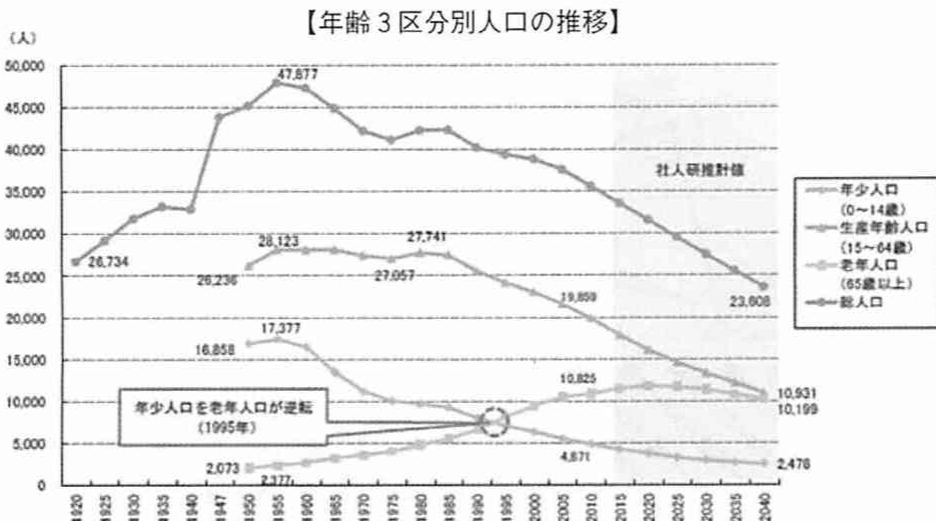
映画館もない大型商業施設もない人吉市を、どうしたら若者の活気で賑わう街にできるか。人吉市の現状を見つめ、実現可能な政策を考察しました。

1. 問題・課題

(1) 人吉市が抱える人口減少問題

全国的に人口が減少していることに加え、都市部への人口流出が続いています。人口減少の要因の一つに近年の合計特殊出生率の低さが挙げられますが、人吉市の合計特殊出生率は1.94人（平成20～24年）と、同年の全国平均1.38人と比較しても高い数値であることがわかります。人吉市だけでなく、球磨地域においても錦町・あさぎり町・山江村で同出生率が2.0人を超えています。この数値から、人吉球磨地域が子供を産み・育てやすい地域であることが推測されます。

さらには、熊本県が行った県民総幸福量に関する調査における平成27年度結果からも、人吉球磨地域住民の幸福度と総合的な満足度は県内平均を上回り、阿蘇地域に次いで県内2位という結果となりました。これらはこの人吉球磨が「住み良い地域」であるということを示していると考えられます。



しかし、住み良い地域であるにも関わらず地域の人口減少は続いています。

人吉市の人口は、1980年以降、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）が一貫して減少傾向にあり、一方では老年人口（65歳以上）が増加傾向にあります。1995年には老年人口が年少人口を上回り、超高齢社会の最中にあります。

特に子どもの数が少ない山間地域における小・中学校については、年少人口の減少に伴い、廃校を余儀なくされたケースも少なくはありません。地域からは子どもたちの声が消え、活気のなさが目立ちます。

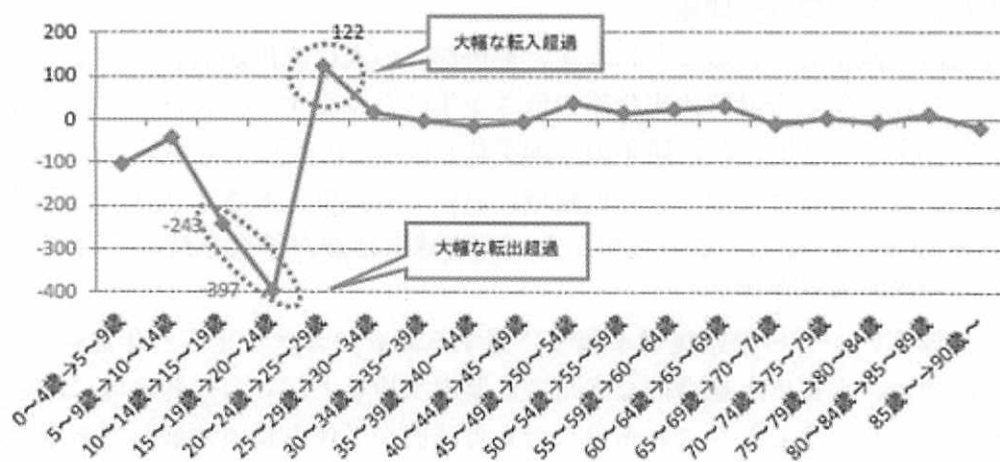
また、労働力人口も減少傾向にあり、特に人吉市の主要産業である農業・林業においては、労働力の減少に伴う後継者不足が深刻化しています。

(2) 人口減少問題の背景にあるもの

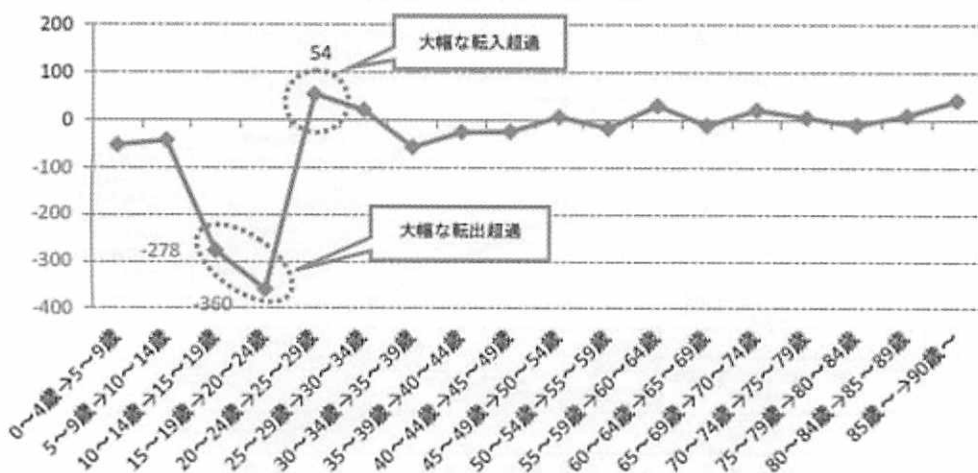
前述のとおり、人吉市の合計特殊出生率は1.94人であり、同年の全国平均1.38人と比較しても、とても高い数値であることがわかります。

このように一定の出生があるにもかかわらず、どうして人口減少が進むのか。年齢階級別に人口移動の状況を調べました。

【平成17→22年の年齢階級別人口移動（男性）】



【平成17→22年の年齢階級別人口移動（女性）】



年齢階級別の人口移動の状況をみると、男女共に10～14歳から15～19歳、15～19歳から20～24歳になるときに大幅な転出超過が見られます。これは、高校卒業後の進学や就職に伴う転出によるものと考えられます。人吉球磨地域には大学が無いため、高校を卒業し進学を望む生徒のほとんどが転出している状況です。

一方で、20～24歳から25～29歳になるときに大幅な転入超過が見られます。これは大学卒業後のUターン等によるものと考えられます。

このように大幅な転出の一方で転入も認められてはいるものの、転出数が転入数を大きく上回っているために人口流出が続いている状況にあります。

このことから、人口流出に歯止めをかけるためには、高校卒業後の転出を抑制させることよりも、主に大学や専門学校等を卒業した後の転入・再転入を増加させることの方が効果的であると考えました。

2. 問題に対するアプローチ

(1) 解決のカギを握るのは若者たち

前述で示したグラフからも分かるとおり、大幅な転入超過が見られるのは、大学や専門学校等を卒業した直後の年齢層のみであり、他では転入数は減少しています。このことから、転入・再転入を促す対象として、まだ家庭を築いていない、大学や専門学校を卒業して間もない年齢層に的を絞ることが有効であると考えました。

また、現在多くの自治体が定住促進のための取り組みを行っています。その多くが家庭を持つ生産年齢層を対象にした取り組みです。しかし日本全体において人口が減少している中、他自治体同様に生産年齢層を対象にしても、競合が多すぎて非効率です。まだ他がターゲットにしていない「学生」に的を絞ることで、今後より多くの人に人吉市を移住・定住先として選んでもらえることが期待できます。

更に、近年では在宅ワークなどの多様な働き方が広まりつつあります。近い将来、就職によって住む場所が限定されない世の中になるであろうと考えます。働き方や暮らし方に、自分らしいライフスタイルを求める若い世代を対象とすることと同時に、新しい働き方の提案やそれに伴う環境整備を行うことで、若者のニーズに応じた施策となるのではないかと考えます。

(2) 人吉球磨の高校生を対象にアンケート調査を実施

実際に、人吉球磨の高校生は、卒業後の進路についてどのように考えているのでしょうか。

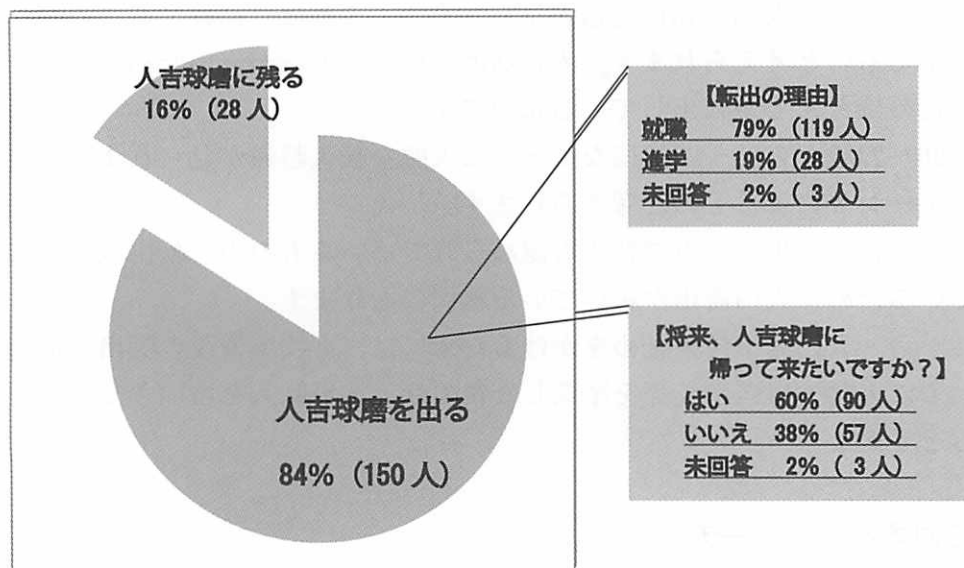
高校生の意向を知るべく、人吉球磨の高校（球磨商業高校及び球磨工業高校）に通う生徒178人を対象にアンケート調査を行いました。

アンケート調査の結果、8割以上の生徒が人吉球磨を出る意思があることがわかりました。

進路の決定については、就職・進学共に「自らの希望によるもの」という生徒が大多数を占め、「地元就職先、進学先が無いから」との理由で転出を決めた生徒は少数でした。

高校卒業後に人吉球磨を出る予定であると答えた生徒のうち、「将来、人吉球磨に帰って来たいですか？」の質問に「はい」と答えた生徒は90人と、全体の60%を占めています。

【高校卒業後の進路について】



●「はい」の理由

- ・家族を支えたいから。
- ・住み心地の良い環境であるから。
- ・自分の故郷だから。
- ・子どもができたときに育てやすい環境だと思うから。

この結果は私たちにとって大変意外なものでした。想像していたよりも多くの生徒が、将来は地元に戻りたいという意思を持っていることがわかりました。

一方、同質問で「いいえ」と答えた生徒は57人と全体の38%でした。

●「いいえ」の理由

- ・就職先がないから
- ・都会に住んでみたいから。
- ・田舎は不便だから。
- ・何もなくつまらないから。

調査によると、84% (150人) もの高校生が、卒業後は人吉球磨を出る意思を持ちながらも、そのうちの60%もの生徒が将来は人吉球磨に帰りたいと考えていることが分かりました。

しかし現状としては、高校卒業後に転出した生徒のほとんどは大学卒業後も都市部に留まり、地元への再転入は少数となっています。転出前の段階では「将来は地元に戻りたい」と考えていたが、実際に都市部での生活を経験した後、地元への再転入につながっていない現状です。

どうしてこのように経年変化がみられるのか。私たちなりに考察した結果は次のとおりです。

(考察)

- ・人吉市よりも都市部の方が魅力的であると感じているから。

- ・生活の利便性を重視する傾向が見られるから。
- ・「精神的豊かさく物質的豊かさ」の傾向が見られるから。
- ・就職先である都市部に退職まで居住する（一度就職したら定年まで働き続ける）という考え方が、まだ一般的であるから。

(3) 人吉市の魅力を若者に伝えたい

アンケート調査では、『人吉市を若者にとって魅力的な街にするためには、どうしたらよいか?』という設問も設けました。この設問に対し、多くの生徒が「『商業施設・映画館・遊園地』など“都会”にあるものを作ること」と答えました。

前述の考察にも示したように、まだまだ行動範囲の狭い高校生にとって自宅や学校以外の環境を知る機会はとても少なく、どうしても都会への憧れや物質的な物の豊かさへの興味・関心が勝ることは仕方のないことなのかもしれません。残念ながら今回のアンケート調査では、人吉市の魅力を十分に理解している学生は、少数であったように感じました。

このことから私たちは、若者の再転入が少ない要因には、故郷の魅力を十分に知らないまま転出してしまっていることも挙げられるのではないかと考えました。

3. 具体的提言内容

若者の再転入を促進するために重要なことは、まず第一に故郷を離れる前の高校生を対象に人吉市の魅力を十分に知ってもらう取り組みを行うことだと考えました。また、大人への準備期間である学生の時期に、十分に人吉市の魅力を体感してもらうことは、地元高校生のみならず、将来移住定住の可能性を秘めているすべての若者に共通して、将来の定住への後押しになることが期待できます。

(1) 「チャレンジホリデー人吉」の提案

若者に人吉市の魅力を体感してもらう取り組みとして、「チャレンジホリデー人吉」を提案します。

対象者は高校生や大学生（市内外問わず）とし、夏休みや冬休みなどに合わせて1週間～1ヵ月の期間、人吉球磨の魅力を感じられるメニューを複数用意し、体験してもらうものです。

(2) 提言の目的

「チャレンジホリデー人吉」の目的は、高校生や大学生に人吉市の魅力を「体感」してもらうことで、将来様々なステージで訪れる“人生の選択の時”に、人吉市が「住みたいまち」「働きたいまち」「結婚し子育てしたいまち」等の選択肢の一つになることです。

体験だけでなく、寝食を共にしたり、共に働く中で地域の人とのつながりができます。そのつながりこそが人吉市定住への選択を後押ししてくれるものと期待します。

人吉球磨特有の産業や伝統文化に触れてもらうだけでなく、“おひとよし（人吉）”と言われるような人の温かさ・優しさ、人と人とのつながりを感じてもらうことも大きな魅力の一つであると考えます。

本提言は将来の移住定住人口の獲得に向けた投資的施策であり、本提言を実行すること

で若者の交流人口を増やし、まちに活気を取り戻すとともに、「チャレンジ空間」という新たな観光資源の一つとなることも期待できます。



(3) 定住につながる仕組みづくり

「チャレンジホリデー人吉」による体験を通じ、“企業に就職するだけでない働き方”を知ってもらうことで、自分自身のライフスタイルを模索し、選択の幅が広がります。

このことは地元の若者やUターン対象者のみならず、Iターン対象者にも同様のことが言えます。高校生や大学生の時期に、人吉市での経験を通し、第二のふるさととして記憶に残ることで、将来の選択肢の一つとなることが期待できます。

また、何もない・つまらないというイメージを払しょくするためにも、若者がチャレンジできる環境・受け皿を整え、「チャレンジ空間」にふさわしい活気のある人吉市を創り上げていく必要があります。

(4) 「チャレンジ空間」として市全体を盛り上げる仕組み

官公庁×民間×学校の連携により人吉市が一体となって進めていくことが、市全体を盛り上げるためのポイントとなります。

まず、対象者となる若者（高校生・大学生）の募集は、人吉球磨の高校や県内の大学等と連携し行います。地域内の高校には課外活動の一環としての提案、地域外の高校や大学には、修学旅行やゼミ研修などのプランの一部として提案します。

体験メニューの選定及び受入先の募集については、市の広報紙やホームページ等を活用し、地元企業や農家等へ協力を呼び掛けます。体験メニューの内容は、実際に受入側が手助けして欲しい内容に設定することで、受入側にも「若い労働力」を確保できるという、大きなメリットがあります。

また、体験期間を1週間から1か月に設定し、体験中には休日を設けることで、人吉市の観光資源であるラフティングや鉄道のエクスカッション等による消費も見込まれます。

周知の手段としては、学校関係への告知だけでなく若者にとって身近なツールであるSNS等を活用し情報発信を行います。若者に受け入れられやすいだけでなく、参加者のリアルタイムな投稿やそれに対する若者同士のメッセージのやりとりにより、若者の興味関心が集まることが期待できます。また、予算は限りなく0円に収めることができます。

4. おわりに

人吉市の合計特殊出生率は全国的にみても高い数値にあるので、社会減少を抑制することができれば、自然増加への転換も夢ではありません。

本提言は、まさに相良700年の自然と文化が創り上げた「保守」の住みよさと、新しい働き方と若い人財を迎える「進取」の姿を現代に現す取り組みであり、「保守」「進取」の相乗効果で人吉市を未来へ発展させるものと期待します。

【参考文献】

- ・人吉市「人吉市人口ビジョン」
- ・熊本県「平成27年度県民総幸福量（AKH）に関する調査」